

成田空港の更なる機能強化に関する 調査報告について（その2）

2016年3月29日

成田国際空港株式会社

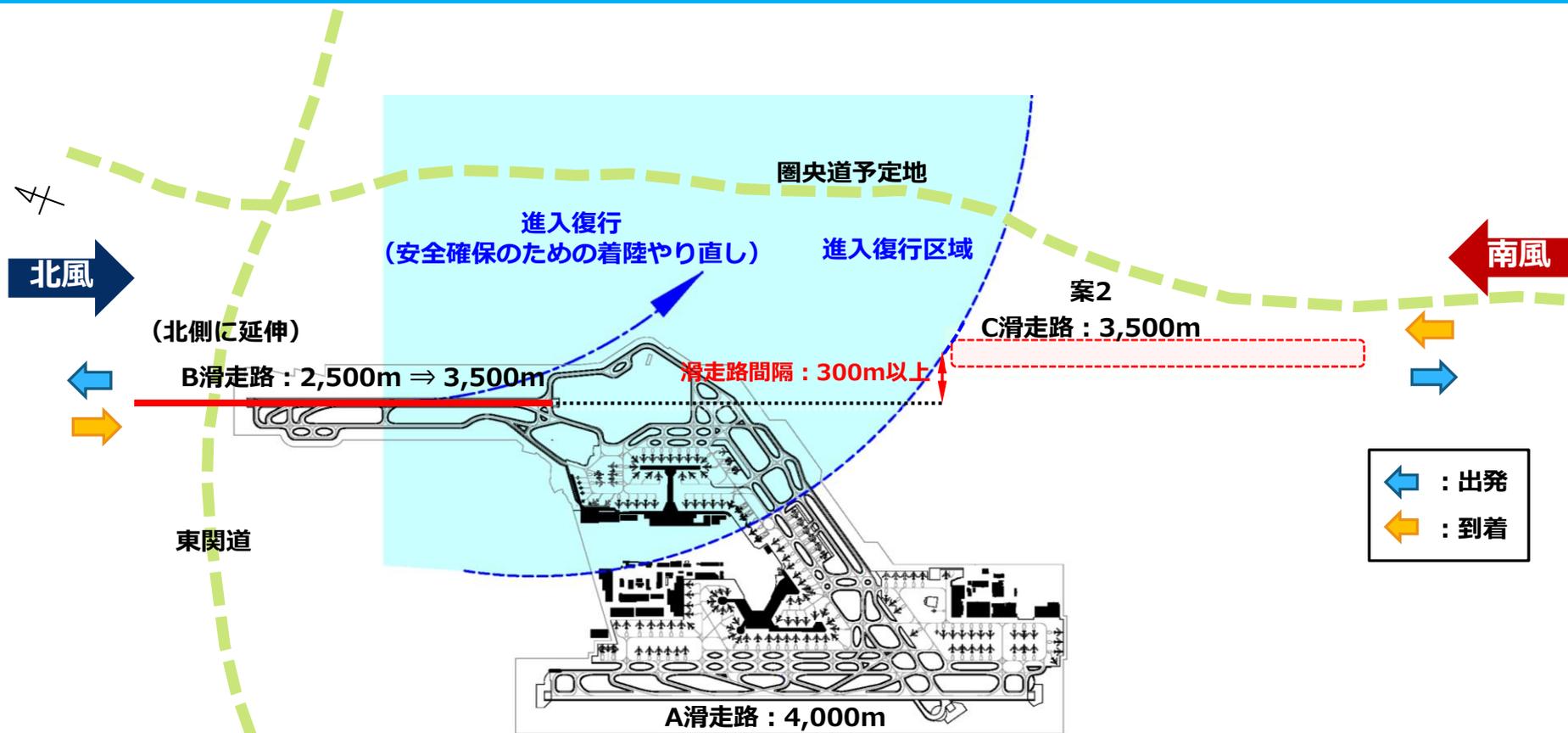
WORLD SKY GATE _ NARITA

成田空港の更なる機能強化に関する調査報告の内容

1. 前回の四者協議会でさらに調査・検討を進めていくこととされた内容
2. 更なる機能強化に向けて必要となる調査・検討内容について
3. 成田空港における航空需要予測
4. 滑走路の運用方法について
5. 海外主要空港の敷地規模に関する事例調査
6. 空港の機能強化に向けた今後の流れ(想定)

1. 前回の四者協議会でさらに調査・検討を進めていくこととされた内容

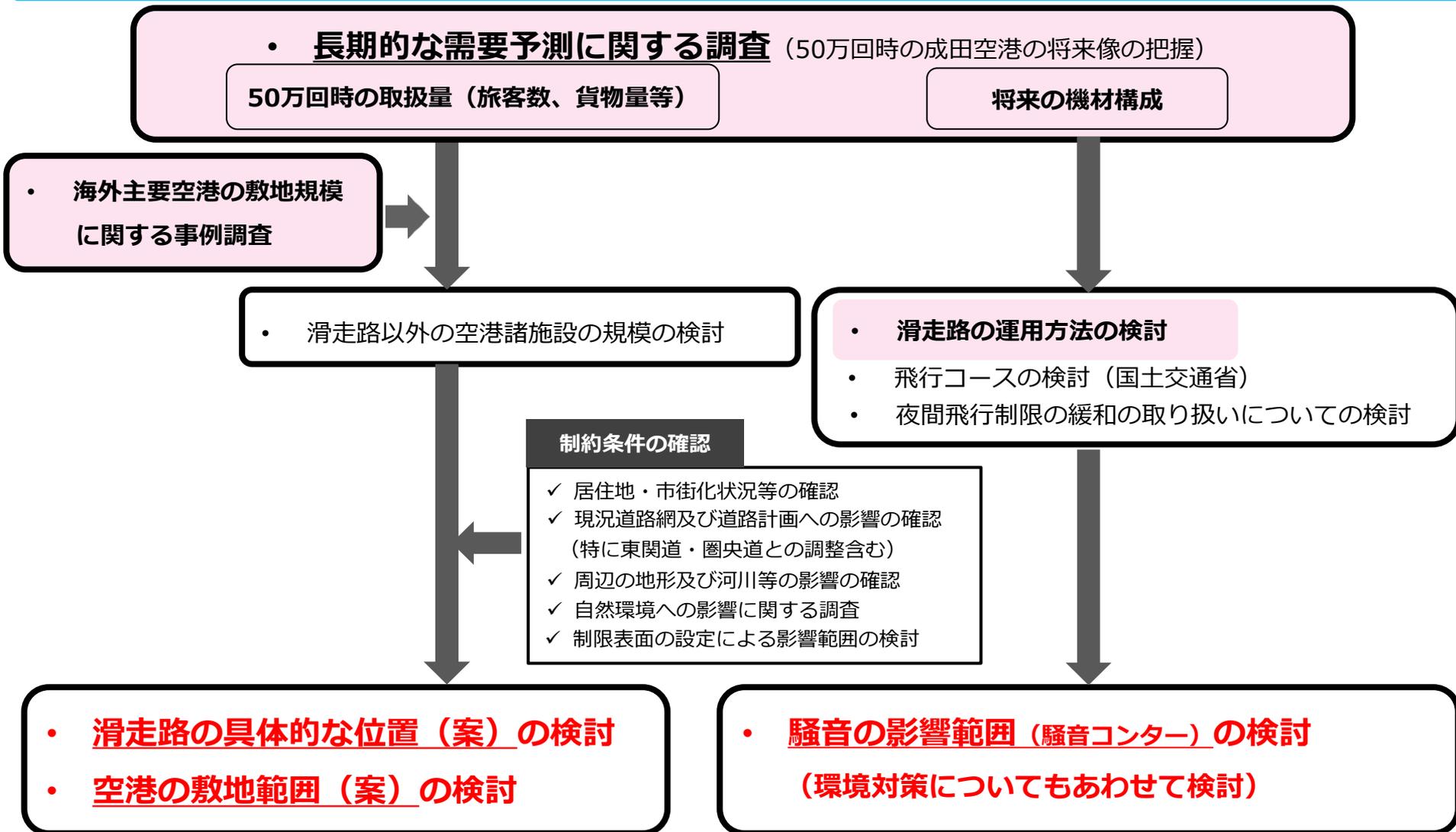
- 11/27の四者協議会では、以下の案（年間発着容量を50万回まで拡大でき、地上走行距離が短い案）が今後の議論のたたき台とされた。
 - ・第3滑走路：案2
 - ・B滑走路の延伸：北側延伸
 - ・夜間飛行制限の緩和：地域に与える環境への影響等と密接に関係してくるため他の機能強化策と一体的に検討
騒音地域の住民の理解が得られるよう、慎重かつ丁寧な検討や環境対策に十分配慮



2. 更なる機能強化に向けて必要となる 調査・検討内容について

今回ご報告する内容

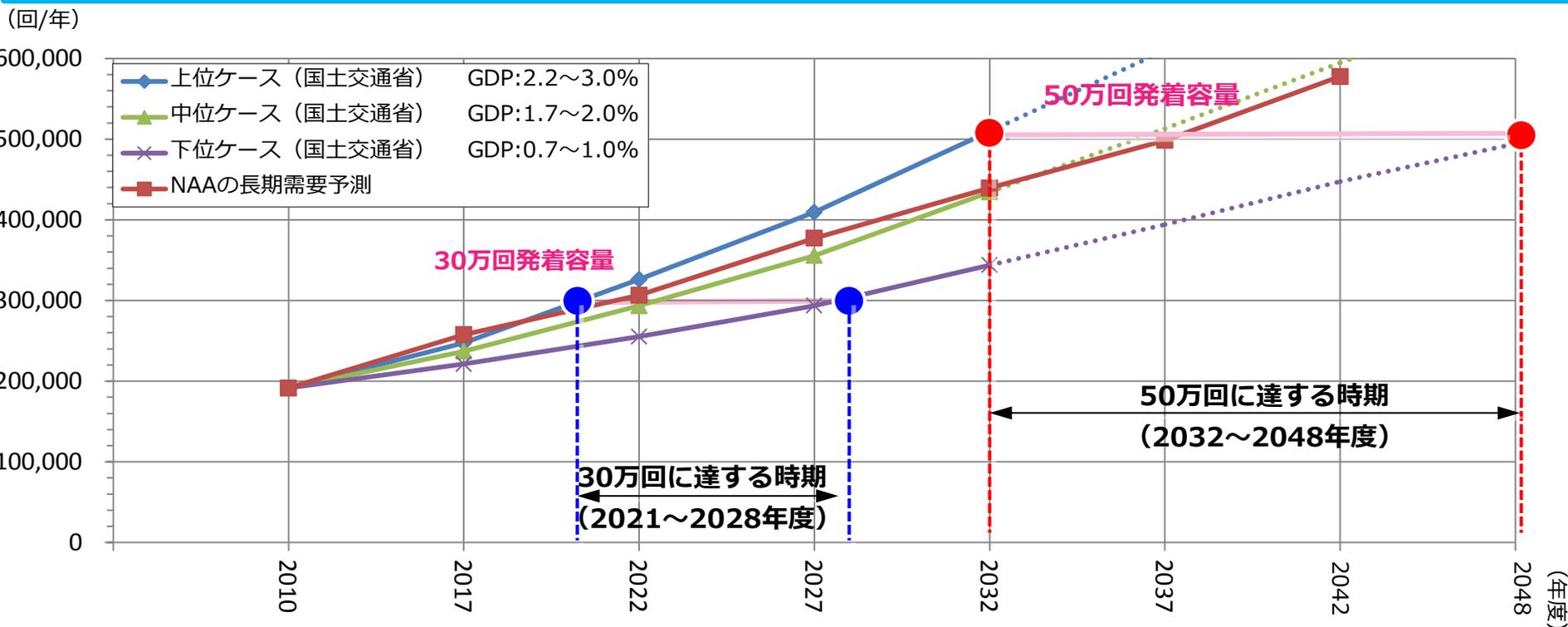
成田空港の更なる機能強化については、第3滑走路等を整備することで年間発着容量が50万回まで拡大でき、今後の首都圏の長期的な航空需要に応えられることから、この具体化に向けて、以下の流れで調査・検討を進めることとしている。



3. 成田空港における航空需要予測

3-1) 年間発着回数予測

- 国土交通省の示した首都圏空港の需要予測及びNAAにおいて試算した長期の需要予測は以下のとおり。
- 国及びNAAの予測によれば、成田空港の発着回数は2020年代には年間30万回を超え、2030年代初頭から2040年代後半には年間50万回に達すると予測される。
- さらにNAAの需要予測によれば発着回数が年間50万回に到達する際には、年間旅客数7,500万人、年間貨物取扱量300万トンになる見込み。
(現状実績は、年間発着回数23.5万回、年間旅客数3,800万人、貨物取扱量200万トン)



※ 羽田空港の発着回数は国内・国際旅客便の合計が現状発着枠の44.7万回と都心上空による3.9万回から深夜の国際便不使用枠を差し引いて試算

国土交通省の需要予測は2032年度までしか公表されていないため、2033年度以降はそれ以前と同じ伸び率を使用して試算

※ 貨物取扱量予測については、昨今の貨物動向を踏まえ、引き続き精査を実施

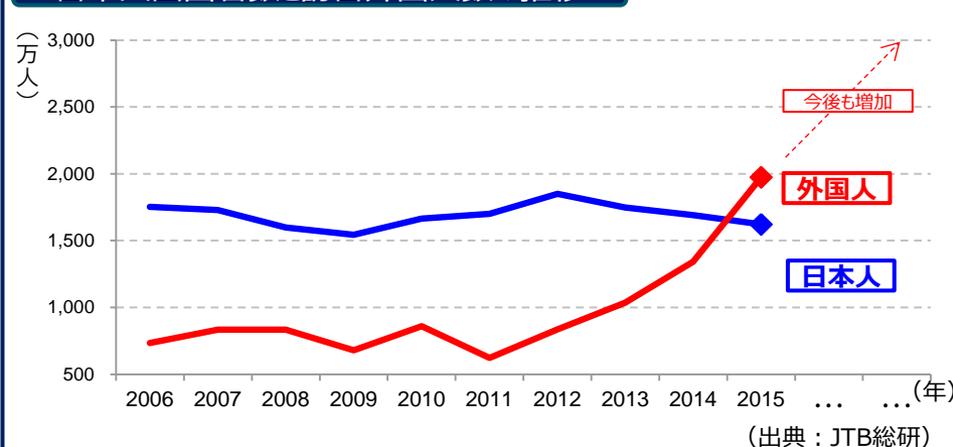
※ 現状実績：現時点における2015年度の取扱見込み

3. 成田空港における航空需要予測

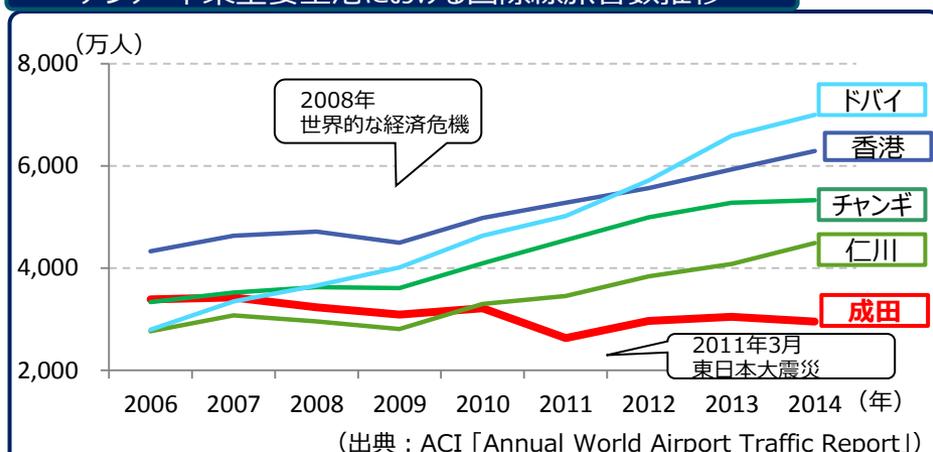
3-2) 成田空港を取り巻く環境

- 日本全国では、中国や東アジア・東南アジアを中心とした訪日外国人旅客が堅調に増加しており、今後も増加が期待される。
- アジア・中東の主要空港では、成長著しいアジア市場の獲得にいち早く取り込んでおり、成田空港は熾烈な競争に既に巻き込まれている。
- また、国内においても、増加する訪日外国人旅客の獲得に向け、空港間競争が激化している。

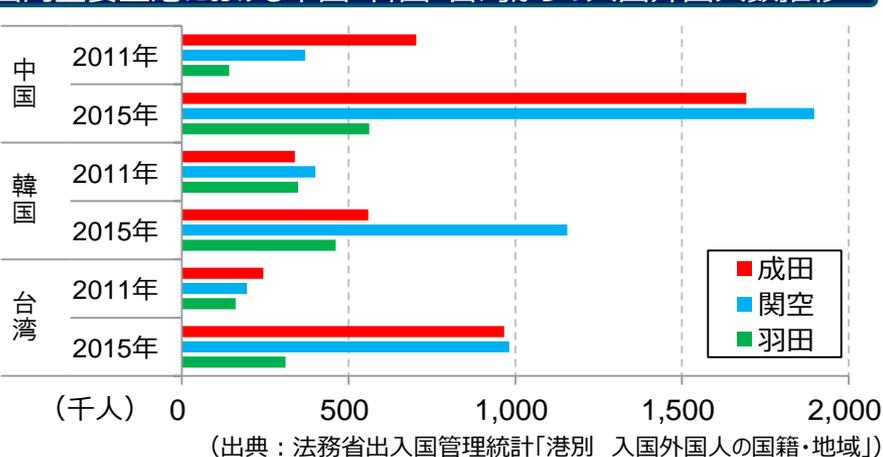
日本人出国者数と訪日外国人数の推移



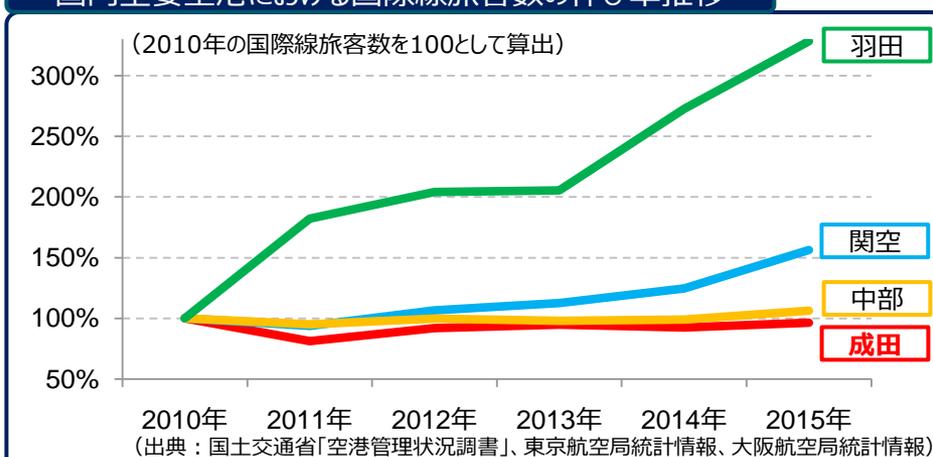
アジア・中東主要空港における国際線旅客数推移



国内主要空港における中国・韓国・台湾からの入国外国人数推移



国内主要空港における国際線旅客数の伸び率推移

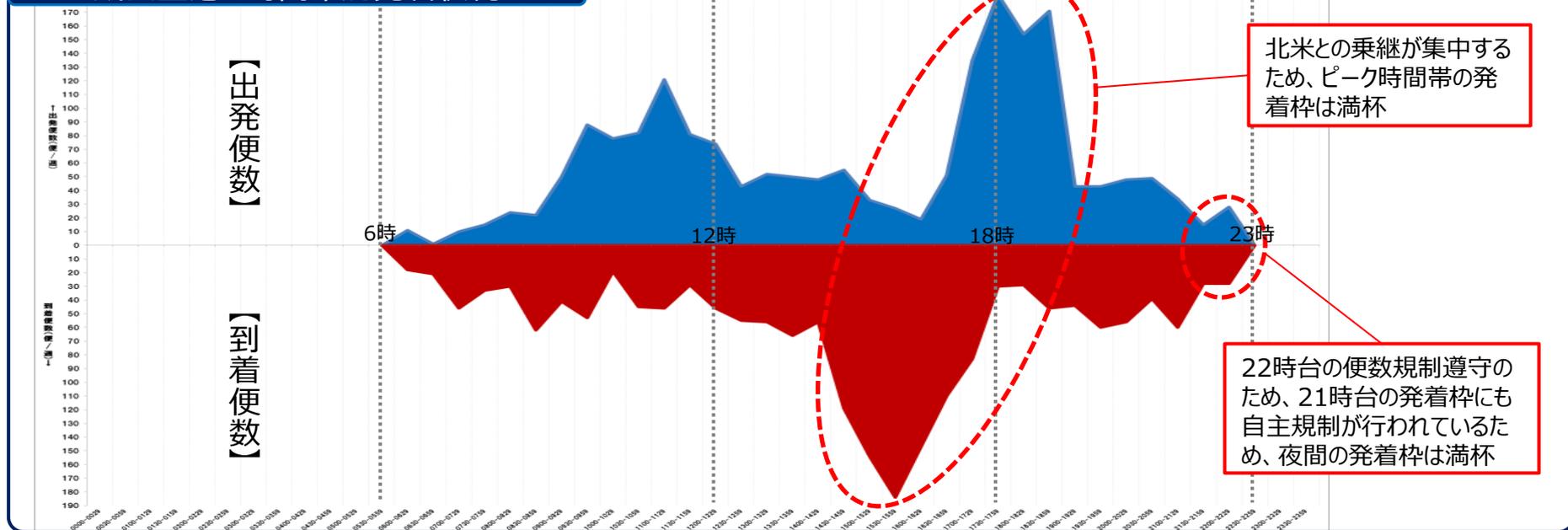


3. 成田空港における航空需要予測

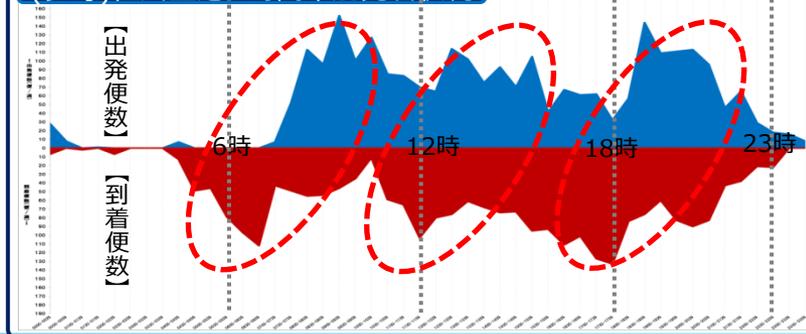
3-2) 成田空港を取り巻く環境

- 成田空港においては、北米との乗継便が集中する夕方のピーク時間帯（15～18時台）及び夜間（21～22時台）の発着枠は既に満杯であり、航空会社のリクエストに十分にこたえられていない状況。
- 路線獲得競争に打ち勝ち、今後増大する需要を取りこぼさないためには、時間値の向上等の更なる機能強化が必要。

成田空港の時間帯別発着状況



(参考)仁川空港の時間帯別発着状況



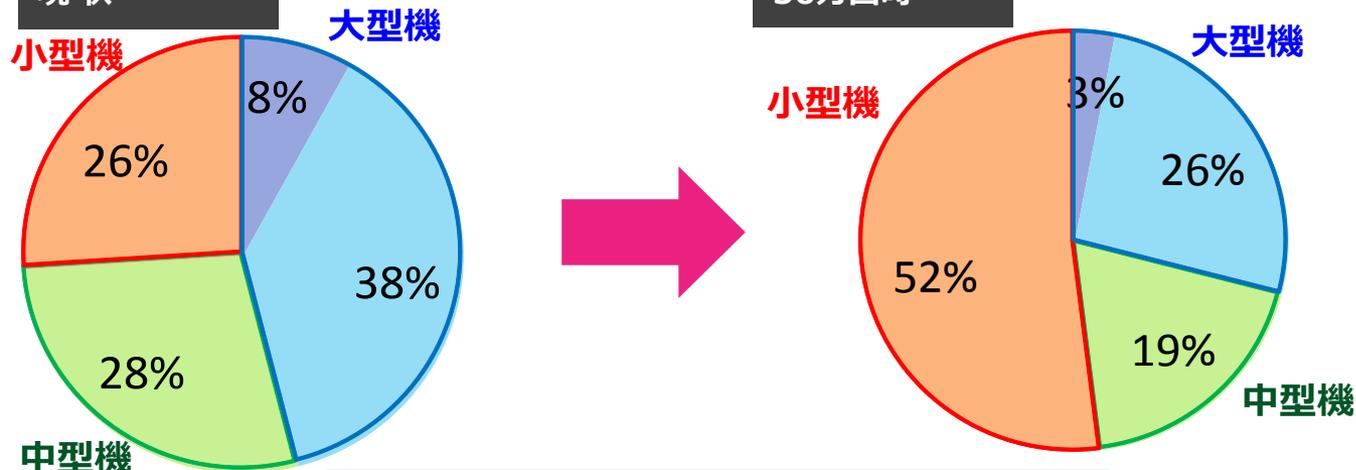
3. 成田空港における航空需要予測

3-3) 50万回時の機材構成について

- NAAの需要予測における50万回時の機材構成は以下のとおりとなった。
- アジア諸国の経済成長に伴う近距離便の増加等により、737・A320等の小型機の比率は、50万回時には過半数に達するものと予測している。

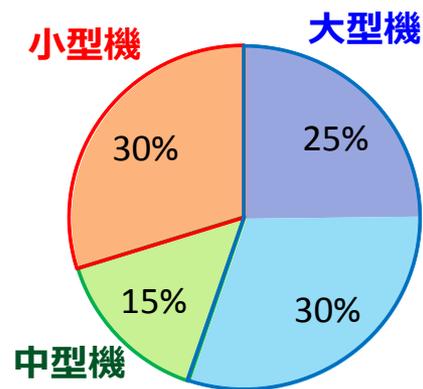
現状※1

50万回時



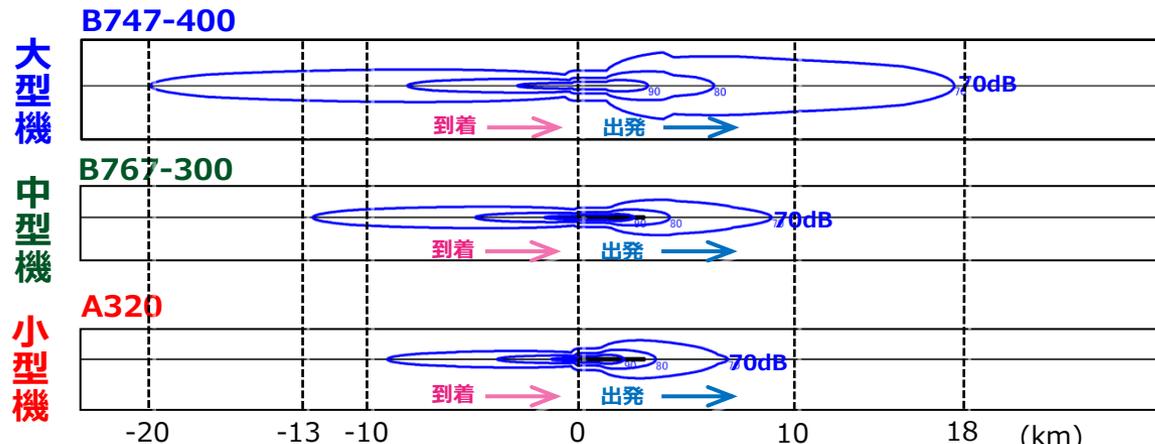
- 超大型機 (A380, 747-8等)
- 大型機 (777, A340, A330等)
- 中型機 (767, 787等)
- 小型機 (737, A320等)

参考：30万回コンター※2



※1 2016年1月の平均
※2 2009年度に作成

航空機毎の騒音の影響範囲

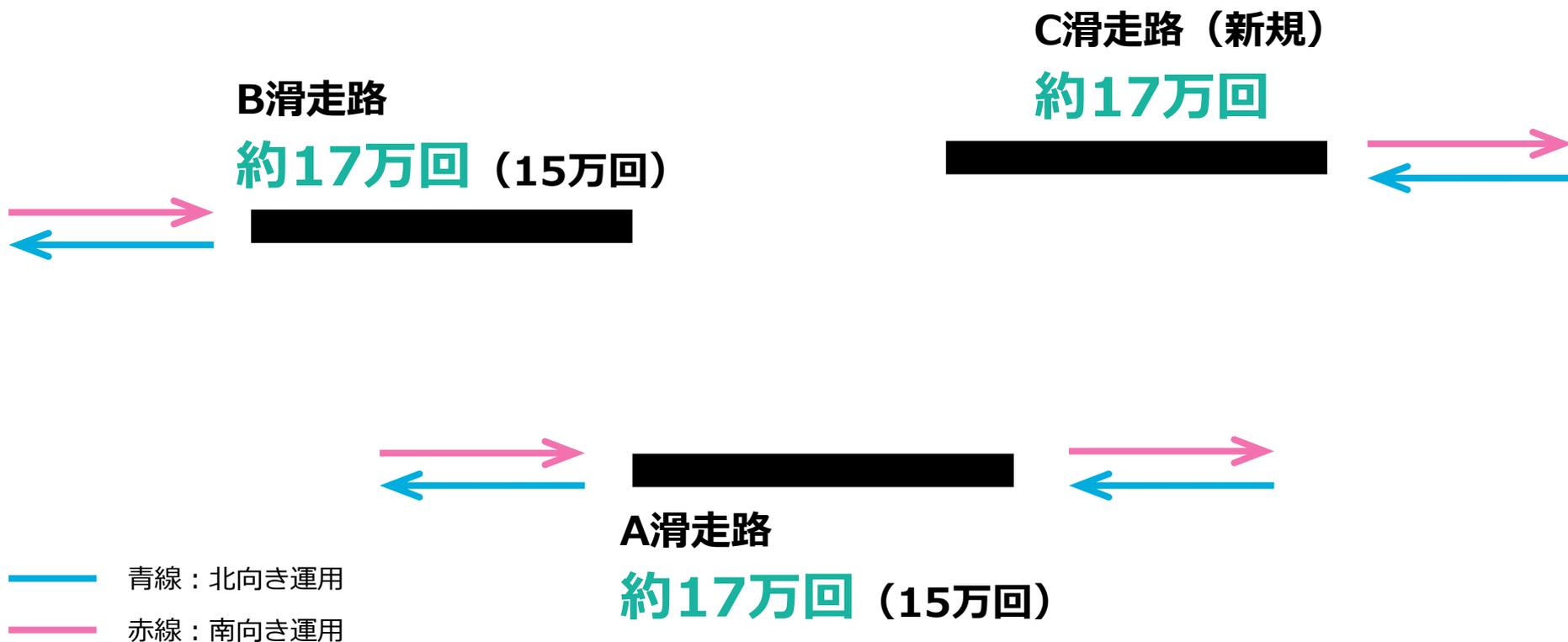


(出典：(財)航空保安無線システム協会 航空無線 2009年第61号)

4. 滑走路の運用方法について

- 第3滑走路整備・B滑走路延伸後の各滑走路ごとの発着回数は以下の通りとなり、50万回時においては、3本の滑走路において概ね同数の約17万回ずつを取り扱うものとなる。

第3滑走路は案2、B滑走路は北側延伸の場合

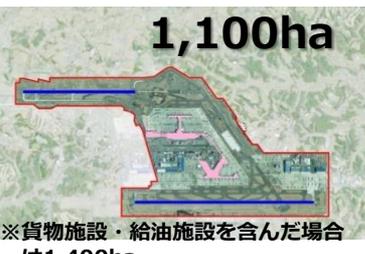


※ カッコ内の数字は30万回合意時の想定発着回数

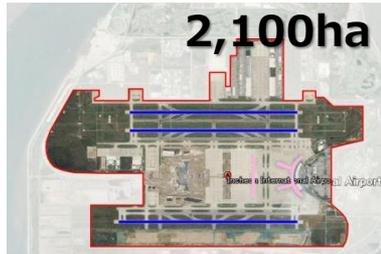
5. 海外主要空港の敷地規模に関する事例調査

5-1) 海外主要空港の敷地範囲の例

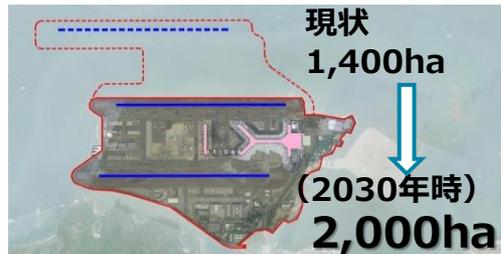
- 年間50万回程度の発着回数を取り扱っている海外の主要空港については、約1,800~3,000ha程度の敷地規模となっている。



成田国際空港
発着回数(万回) : 23.5
旅客数(万人) : 3,800



仁川国際空港
発着回数(万回) : 30
旅客数(万人) : 4,600



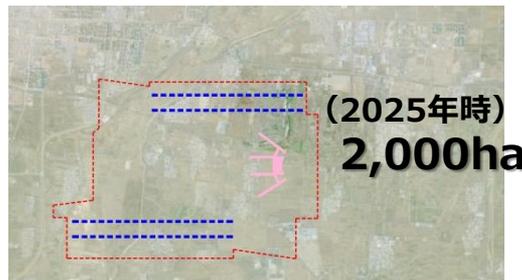
香港国際空港 (2030年時)
発着回数(万回) : 40 60
旅客数(万人) : 6,300 9,700



チャンギ国際空港 (2025年時)
発着回数(万回) : 35 不明
旅客数(万人) : 5,400 13,500



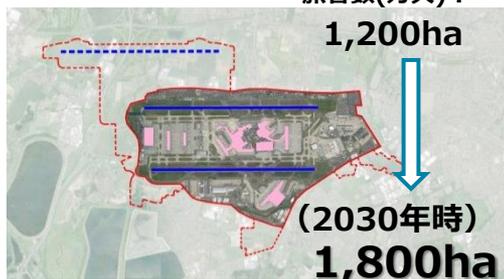
北京首都国際空港
発着回数(万回) : 58
旅客数(万人) : 8,600



新空港 (北京大興国際空港) (2025年時)
発着回数(万回) : 62
旅客数(万人) : 7,200



フランクフルト空港
発着回数(万回) : 47
旅客数(万人) : 6,000



ロンドン・ヒースロー空港 (2030年時)
発着回数(万回) : 47 74
旅客数(万人) : 7,300 13,000

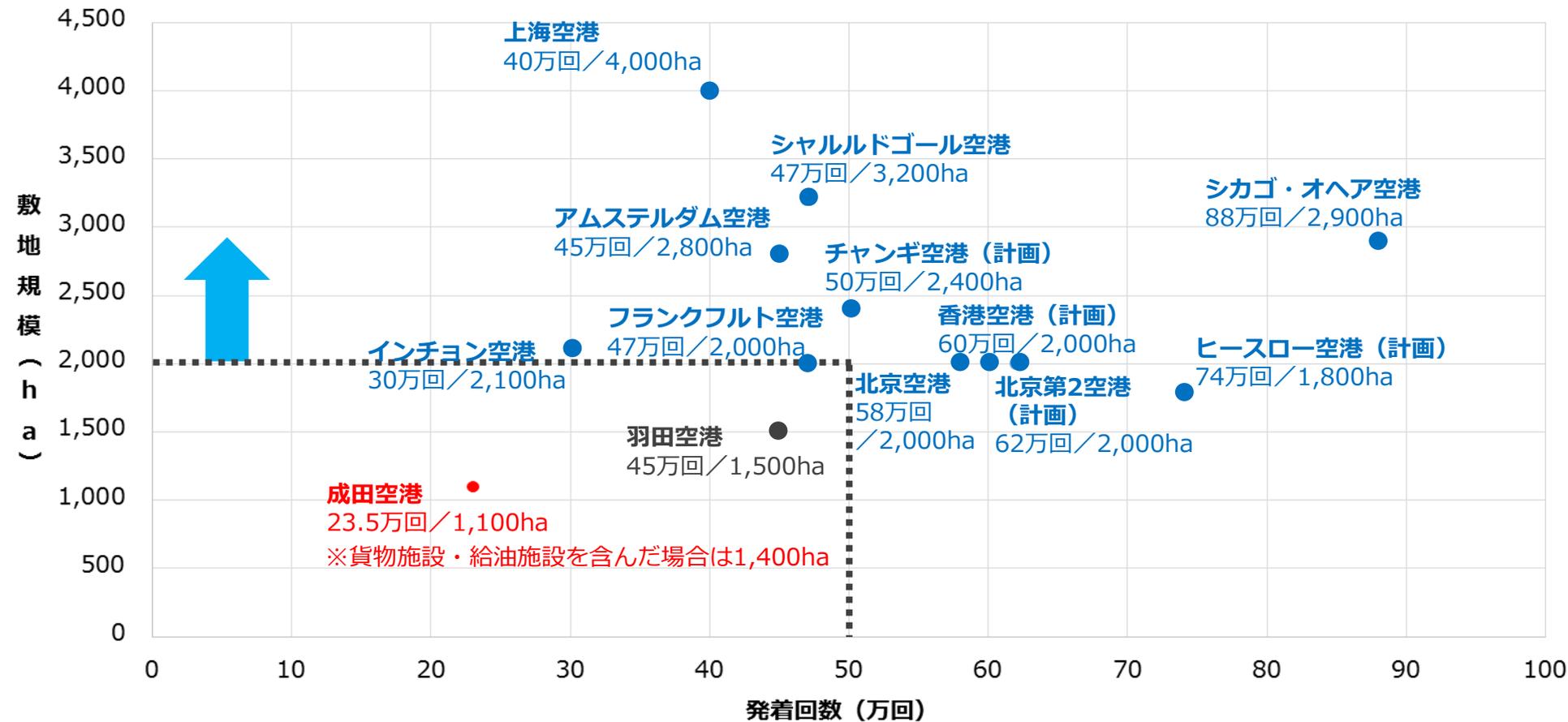


パリ・シャルル・ド・ゴール空港
発着回数(万回) : 47
旅客数(万人) : 6,400

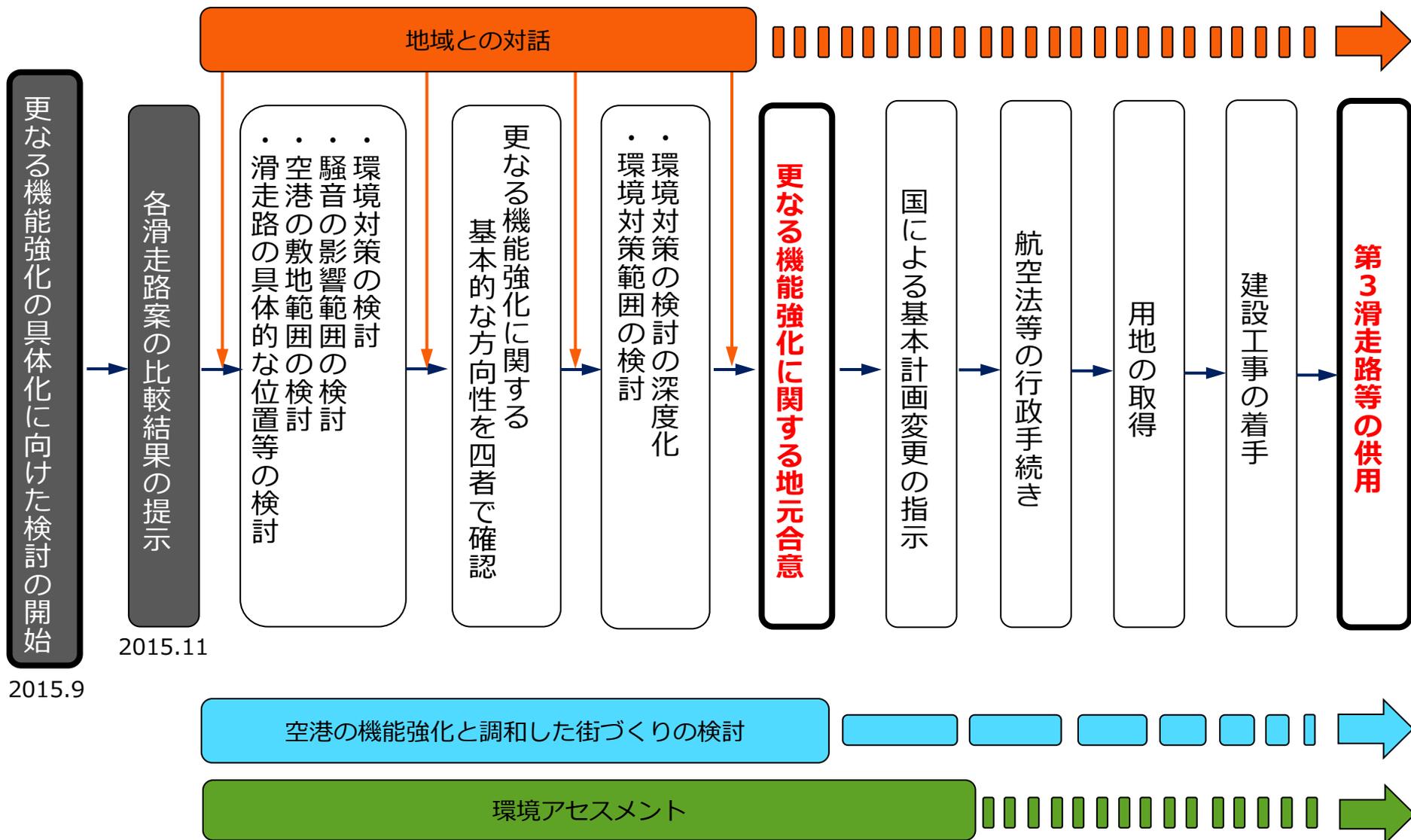
5. 海外主要空港の敷地規模に関する事例調査

5-2) 発着回数と敷地規模の関係

- 具体的な敷地規模については、需要予測に基づき必要施設規模を詳細に検討していく必要があるが、他空港の事例によれば年間50万回程度の発着回数を取り扱うためには、2,000ha程度の敷地規模が必要となることが見込まれる。



6. 空港の機能強化に向けた今後の流れ(想定)



WORLD SKY GATE _ **NARITA**